

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

2面

米流通テーマに 第2回有識者懇話会

(米穀部・広報調査部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

6-7面

トラック50台分のお米を運ぶ エコ鉄道輸送 それゆけ「全農号」

(小谷あゆみさんが取材報告)



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農

ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

News!



米流通テーマに第2回有識者懇話会

持続可能な米生産に向けて流通関係者・消費者が提言

米穀部・広報調査部



(左から)全農の金森正幸常務理事、桑田義文代表理事理事長、農学者の佐藤洋一郎さん、秋元さん、熊崎さん、秋葉さん

懇話会には報道関係者や全農役員ら約65人が参加しました。12月23日の第3回は、研究者・情報発信者が登壇する予定です。

長は、国と全農が連携し、生産費用の長期的支援や安定供給体制の構築を求め、「国民の生活を守る仕組みをつくってほしい」と呼びかけました。

(株)ビビッドガーデンの秋元里奈社長は、ECサイト「食ベチヨク」や品種特徴を示す「お米チャート」を紹介し、デジタル技術が不足する農家への伴走支援や共同集荷・配送モデル構築の必要性を提案しました。

コープデリ生活協同組合連合会の熊崎伸理事長は、協同組合間の連携強化や組合員の声を反映した商品開発を挙げ、「日本の米作りを未来へつなぐ使命を担いたい」と述べました。

(株)アキダイの秋葉弘道社長は、国と全農が

全農は11月26日、「お米の流通に関する有識者懇話会」第2回を東京都中央区で開催しました。(株)ビビッドガーデン、コープデリ生活協同組合連合会、(株)アキダイの代表者が登壇し、持続可能な米生産の課題について意見を述べました。

News!



「全国農業高校 お米甲子園2025」に特別協賛

日本の食と農の未来を担う次世代を応援

米穀部



お米甲子園(食味部門)の表彰式

全農では、未来を担う高校生に米作りの伝統を受け継ぎ、さらなる発展を目指してほしいという思いに賛同し、2019年から「お米甲子園」に特別協賛しています。「お米甲子園」のプレゼンテーション部門では、全農の金森正幸常務理事が審査員を務め、事前審査でノミネートされた3校の中から宮城県農業高等学校がグランプリに輝きました。

食味部門では、出品があった全国64校のうち、最終審査

に進んだ15校の中から栃木県立矢板高等学校の「びかまる」が最高金賞を受賞しました。受賞校には金森常務が副賞として全農賞(常陸牛すき焼き肉、全農オリジナルアウトドアハット)を贈呈しました。このほか、全農ブースでは米食味マップなどを展示しました。

今後も全農は、日本の食と農の未来を担う次世代を応援するとともに、幅広い世代に向けてお米の魅力を発信していきます。

全農は12月7日、米・食味鑑定士協会と「米・食味分析鑑定コンクール・国際大会」つくばみらい大会実行委員会が主催する「全国農業高校 お米甲子園2025(以下、お米甲子園)」に特別協賛しました。



全農ブースの様子



福島「愛情館」に東北のうまい物集合

東北産農畜産物を使用した商品を販売PR

耕種総合対策部

全農東北プロジェクトは11月26、27日の2日間、全農福島県本部農産物直売所「愛情館」で、東北産農畜産物を使用した加工品の試食販売を実施しPRしました。

全農東北プロジェクトは、東北産農畜産物を使用した商品のPRを目的にマルシェを開催しており、「愛情館」での開催は今年で3回目となります。

日頃、店舗では販売していない商品も並び来場者からは好評で、平日の開催にもかかわらず用意した商品はほぼ完売しました。青森県産りんごを使用したりんごジャムを試食した来場者からは「果肉がしっかり残っ

ていて、煮りんごを食べている感覚」「甘すぎず、ヨーグルトにかけて食べたい」などの声が寄せられ、各県メンバーがご当地の商品の魅力を紹介し、PRしました。

来年3月にはJAおきなわファーマーズマーケットで「宮城県産いちご」の販促PRを実施する予定です。当プロジェクトはこれからも、東北産農畜産物の消費拡大に向けて取り組んでいきます。



商品を販売する様子



お得なセット販売を実施



若手職員による生産者向けパッケージづくり

耕種連携イノベーション会議を開催

耕種総合対策部

全農は10月30、31日、宮城県で耕種連携イノベーション会議を開催しました。当会議は全農ビジョン2030の達成に向け、全農および農林中金の若手職員がチーム（分科会）を組成し、部門横断でパッケージ策定を目指すプロジェクトです。

耕種連携イノベーション会議は毎月Webで開催しているため、総勢60人が一堂に会するのは今回が初めてとなります。

1日目は全農が出資している農業法人(株)やまもとファームみらい野で農業実習、2日目はJA宮城ビルでパッケージ策定に向けたグループディスカッションや中間報告を行いました。

農業実習ではグループに分かれ①アンジェレの収穫②

イチゴのランナー間引きと長ネギの除草③サツマイモの出荷調製を行いました。

また、日比健常務理事も各作業に参加し、「全農ビジョン2030の達成に向けて現在、耕種連携で進めているパッケージづくりには、若手の発想や部門連携が重要であり、この現地会議はとても有意義」とエールを送りました。

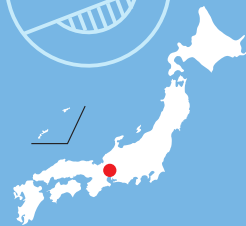
来年2月には役員向けプレゼンを予定しています。



現地研修会の参加者



参加者が協力して行った長ネギの除草作業



伝統の味、品質高め次代につなぐ

岐阜県の誇り―柿の魅力とブランド力で世界へ

岐阜県本部は、「富有柿」発祥の地と広く知られる柿の産地としての強みを生かして、品質向上とブランド力強化に向けたさまざまな取り組みを進めています。

岐阜県では農業技術センターと連携し、消費者ニーズに応える柿の新品種の研究を進めています。糖度や食味に優れた高品質な柿の生産体制を整える一方、近年の高温による着色遅れには過去の出荷データを活用し、ピーク時期を予測。メディアを通じて情報発信を行い、生産者と消費者の購買タ

イミングのズレをなくし、安心を届けています。

販路拡大にも積極的に取り組み、オンライン販売やふるさと納税に加



タイでの「天下富舞」PR販売



お墨付き早秋柿



111万円で取引された「天下富舞」



「天下富舞」初せり 落札者と関係者とかが娘

え、香港・タイ・シンガポールなど海外市場への輸出も進め、岐阜県産柿の魅力の世界へ発信しています。

お墨付き早秋柿

―秋雨が描く、黒のおいしさ

全国で親しまれる早秋柿・太秋柿・富有柿に加え、岐阜県ならではの特別な柿もあります。

その柿は、日当たりの良い圃場^{ほじょう}で、糖度がのる10月中旬ごろに秋雨を受けると、果皮が墨を塗ったように黒く変化

します。特定の気象条件だけで育つ果肉は格別のおいしさ。岐阜県ではこの希少な柿を「お墨付き早秋柿」として販売しており、年によっては全く収穫できない“幻の柿”です。

天下富舞

―岐阜が誇る最高級ブランド柿

県農業技術センターが長年研究し、2017年に品種登録した「ねおスイート」の中でも、特に高品質なものに与えられるブランド名が「天下富舞」です。

2016年の初せりでは、糖度25度の柿が2個30万円(税別)という

高値を記録。2025年には過去最高額となる2個111万円(税別)で取引されました。

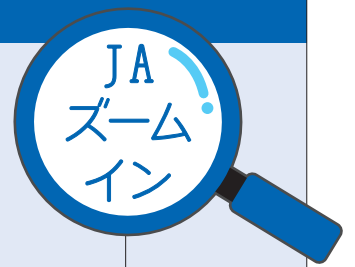
名前は織田信長公の「天下布武」にちなみ、この柿を手にとった全ての方々に「富が舞い込む」ことを願って命名。厳重管理で生産され、国内外で高い人気を誇ります。

袋掛け富有柿と果宝柿

―選ばれし1%、上品な甘み

夏場に袋を掛けて育てる「袋掛け富有柿」は、太陽光や寒暖差を抑え、上品な甘みを持つ真っ赤な果実に育ちます。さらに、大きさ・色・甘さ・成熟度・品位の5つの基準を満たしたもののだけが「果宝柿」として出荷されます。その割合はわずか1%未満。まさに幻の逸品です。

岐阜県は次世代へ柿文化をつなぐため、スマート農業技術の導入や若手農業者の育成、病害虫防除試験にも注力。気候変動に対応しながら、「岐阜の柿」を守り、進化させる挑戦を続けています。



ドローン使い施肥・防除 地域農業の活性化を支援

JA 京都にのくに (京都府)



概要	2025年3月31日現在
組合員数	1万9943人
職員数	238人
販売品取扱高	18億3千万円
購買品取扱高	13億1千万円
貯金残高	1520億2千万円
長期共済保有高	4150億8千万円
主な農産物	米、 万願寺甘とう、 茶

京野菜で生産振興

JA京都にのくにには、京都府北部に位置し、米・茶・小豆、また、2017年6月に地理的表示(GI)保護制度



地理的表示(GI)保護制度に登録された万願寺甘とう

に登録された肉厚で甘みのあるトウガラシの「万願寺甘とう」、コクがあり甘みが強い黒大豆エダマメの「紫ずきん」などの京野菜を生産振興しています。

JA出資型農業生産法人設立で地域の農業振興・活性化

JAでは、2017年1月に管内の1地区をモデル地区として、JA出資型農業生産法人「(株)アグリサポート」を設立しました。地域・耕作条件に合った作物の栽培による優良農地の保全や、近年多発する自然災害の際には、被害を受けたハウスの復旧作業などを行い、地域の農業振興・活性化に貢献しています。

農作業の効率化をめざして

現在は、地域から借り受けた農地で水稻約1300㌥、小豆約50㌥、「紫ずきん」約30㌥を栽培する他、水稻苗の育苗業務を請け負って



ドローンによる基幹防除

います。

また、農業用ドローンを2機導入し、JA管内の圃場(ほじょう)で水稻仕上げ防除を約65㌥、穂肥の施肥を約14㌥、麦の基幹防除約13㌥を行っています。今後は豆類および野菜の防除・施肥作業でドローンを活用した作業体系を確立し、農作業の効率化や単収の向上、スマート農業の普及拡大に取り組んでいきます。

その他、年々増加し、農業者の所得増大・農業生産の拡大の妨げになっている有害鳥獣被害を防止するため、地域で取り組む金網フェンスの設置作業にも積極的に参加しています。

さらに、新規就農希望者への研修や京都府農林産業体験ツアーを受け入れ、地域雇

用創出や食と農を基軸にした都市との交流事業を通じて、地域の活性化に取り組んでいます。

今後も、優良農地の保全と食と農を通じた地域の活性化に向け、取り組んでいきます。



体験交流学校

トラック50台分のお米を運ぶ エコ鉄道輸送 それゆけ「全農号」

「物流2024年問題」対策として、2023年11月から定期運行を始めた米専用貨物列車「全農号」。米の産地、青森を出発し、北陸を経由して消費地の大阪まで、鉄道輸送で米の安定供給に取り組んでいます。全農号の一日に密着しました。

お米専用貨物列車

「全農号」とは

米専用貨物列車「全農号」は、「物流2024年問題」の対策として、JA全農、全農物流、JR貨物により、2023年11月から定期運行がスタートしました。

青森県の八戸貨物駅を日曜日の夜に出発し、北陸を経由して大阪まで1000^{キロ}を超える輸送距離を約20時間かけて走ります。休日ダイヤを活用し、現在は月2回の運行です。9月のある日、全農号の到着時刻に合わせて、JR貨物の金沢貨物ターミナル駅を訪ねました。石川県金沢市の郊外にある北陸最大の貨物駅です。プラットフォームが並び、フォークリフトやトラックが行き交います。

正午過ぎ、ヘルメットに安全ベルトを着用して、線路そばで待機していると、赤い電気機関車がげん引する「全農号」がゆっくりと線路に滑り込んできました。貨物列車は20両編成で、最後尾までの長さは420^{メートル}。20両に満載すると100

個のコンテナが一度に運べます。

運転室の中に入らせていただくと、見晴らしの良いフロントガラスに計器が並んでいます。前駅の富山で交代したばかりの指導員が応対してくれました。

扱う貨物がお米とあって「なるべく揺れを少なくするよう」

に、運転士に指導しているとのこと。停車時間、30分ほどの間に、石川県と富山県のお米のコンテナを積み終えて、全農号がいよいよ出発です。運転士の「発車！出発進行ー！」の合図とともに大阪へ向けて走り出しました。

「全農号」が誕生した背景は？

「物流2024年問題」でトラックドライバー不足が懸念されている中、輸送力の確保と環境負荷低減に取り組むため

にスタートさせた「全農号」。

JA全農・米穀部主食課の小林優介さんに、その特徴を伺いました。

「全農号の特徴は、一度に500^トの荷物を輸送できる能力と、長距離区間を効率的に輸送できることです。そして、環境負荷低減につながる大きなメリットだと思います。今後は、毎週運行を目指すことと、他のルートでも生産者のお米を消費者まで安定的に届ける仕組みづくりをしていきたいと思っています」。



金沢貨物ターミナル駅にて。全農号の電気機関車はEF510形、愛称はECO-POWERレッドサンダー



農ジャーナリスト・フリーアナウンサー
小谷あゆみさん

石川テレビ放送のアナウンサーを経て現在はフリー。野菜を作るアナウンサー「ベジアナ」として家庭菜園歴は25年。農ジャーナリストとして、都市農村交流や、生産と消費のフェアな関係をテーマに全国で取材、講演、シンポジウムでの司会やコーディネーターなどを行う。日本農業新聞ほかでコラム連載中。農林水産省・世界農業遺産等専門家会議委員なども務める。

1回の運行で500^ト、トラック50台分の貨物が輸送できるということは、ドライバー50人分の仕事が一度で遂行できるということです。「物流2024年問題」対策として始まった「全農号」ですが、人手不足への対応と同時に、人件費や燃料コストの削減、省力化にも役立ち、CO₂排出量の大幅な削減にも貢献します。

環境負荷の小さい大量輸送

手段への転換は「モーダルシフト」と呼ばれ、国でも進めていますが、まさに「全農号」は、環境問題と社会課題解決をリードした、持続可能な取り組みだといえます。

現在の月2回運行から、毎週運行にするには、運用上の改善が課題ですが、そうなれば、さらに効果は増しそうです。

作業を6分の1に短縮！ 全農物流の新たな工夫

鉄道輸送に加えて、全農物流では様々な工夫をしています。埼玉にあるお米の保管倉庫は、室温10〜15度、湿度約



全農米穀部の小林さんはお米好きで1日3合食べる日もあるそう



田園の中を走る全農号 (YouTube 映像より)

60%を保っています。庫内に積み上げられているのは、全農統一フレコン(フレキシブルコンテナ)。1袋は約1トです。規格を統一することで、産地から販売先までの輸送にかかる作業を省力化することができます。また、全農統一フレコンはフレコン規格を統一することで、産地への配布から販売先からの回収まで一貫した流通サイクルを可能にしています。

全農物流 食料営業部 食料営業課・廣瀬雅則さんによると、

「1袋30^{キロ}の紙袋ですと、1つつ積み替えの手荷役が発生していたのですが、1020^{キロ}量



全農統一フレコンの前にて小谷さん

目のフレコンだと34袋分がフォークリフトで一気に動かせます」。また画期的なのは、「レンタルパレットを活用した紙袋のパレチゼーション化」です。従来は拠点ごとに所有者が異なっていたため、移動のたびにパレットから荷物を積み替える必要がありました。そこで、規格統一したパレットのレンタル制を導入し、出荷元から納入先までパレットのまま、一貫して輸送できるようにしたのです。これにより、90分の積み替え作業が、15分に短縮されました。6分の1になったのですから、これは革新的です。



大阪の百済貨物ターミナル駅に到着する全農号



百済貨物ターミナル駅を上から見た様子

そのほか、遠隔地への輸送力確保・環境負荷の小さい輸送手段を目的として、フェリーや内航船を活用した海上輸送に取り組んでいます。

長旅を終えた 全農号が大阪へ

さて、「全農号」の終点は、大

阪市東住吉区にあるJR貨物・百済貨物ターミナル駅です。日曜の夜に青森・八戸を出発した全農号、月曜の夕方6時半に大阪へ到着しました。

日が暮れて照明がともる中、フォークリフトがやってきてコンテナの積み下ろしが始まります。ここからは、近畿、東海、中国、四国、九州へとトラックや貨物列車で運ばれていきます。綿密なスケジュールとともにさまざまな仕事が行われ、スムーズに輸送されていくことを、改めて間近で見ることができました。

お米の産地、青森、秋田、新潟、金沢と日本海側をひた走り、大消費地の大阪までお米を届ける「全農号」。物流を支える皆さんが私たちのもとにお米を届けてくれて、本当にありがとうございます！つて叫びたくなりました。

今回の取材の様子をまとめた動画はこちら



トロペジェンヌ風パン発売

世界的パティシエ監修、栃木県産「とちあいか」使用

全農は第一屋製パン(株)と(株)JR東日本クロスステーションと協業し、「ニュータス×ニッポンエール トロペジェンヌ風パン(とちあいか)」を開発しました。NewDaysおよびNewDays KIOSK店舗において12月16日から数量限定で発売しています。

※店舗によって取り扱いのない場合もあります。

【営業開発部】

同商品は、世界的に有名な日本人パティシエの青木定治氏が営む、パティスリー・サダハル・アオキ・パリ(株SAJ)が監修しました。

丸いブリオッシュにクリームを挟んだフランスのお菓子「トロペジェンヌ」をイメージした菓子パンです。栃木県産「とちあいか」のイチゴジャムとクリームをサンドし、上面にホワイトチョコパウダーをトッピングしており、甘さと酸味のバランスを楽しめます。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



ニッポンエール トロペジェンヌ風パン

ニッポンエール 広がる連携の輪

冬のおいしいミルクコーヒー発売

年末年始の牛乳消費拡大で酪農家応援!

全農と協同乳業(株)は、年末年始における牛乳消費拡大の促進を願い「冬のおいしいミルクコーヒー」を「ニッポンエール」ブランドで共同開発し、全国ファミリーマートで12月16日から発売しています。

【酪農部・営業開発部】

毎年、年末年始は学校給食の休止や一部量販店の休業が重なり、1年のうちで最も牛乳の消費量が少なくなること、生乳の余剰が懸念されています。

年末年始期間も多くの方においしく牛乳を飲んでもらいたいという思いを込めて、生乳を50%使用した「冬のおいしいミルクコーヒー」を開発しました。

水を一切使用せず、コーヒー豆を牛乳にそのまま浸してじっくり丁寧に抽出し、隠し味として伊江島産の黒糖を使用して味にもこだわりました。生乳をたっぷり使用したおいしいミルクコーヒーで、全国の酪農家を応援していきます。



冬のおいしいミルクコーヒー



JA全農たまご

全国各地のブランド卵が集結した「たまごかけごはん祭り」で、3度の日本一に輝き殿堂入りを果たした卵「夢王」。

その最大の特徴は、紅色に近い濃く鮮やかな黄身。濃厚なうまみと深いコクがありながら雑味がなく、ご飯との相性は抜群です。鮮度を落とさないよう、ご注文を受けてから選別・パッキングを行い、産地直送でお届けします。ご自宅用はもちろん、大切な方へのギフトとしても喜ばれる逸品です。

たまごかけごはんファンを魅了した特別なおいしさをぜひご堪能ください。



【送料無料・クール代込】たまご「夢王」30個入
…6000円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com